

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

日時 令和7年12月5日(金) 13:30~14:50

場所 柿の木坂グリーンハウス

構成員 ①利用者②利用者家族として利用者の相談支援員③他事業所職員2名④町内会会长

⑤社会福祉協議会地域支援課⑥柿の木坂グリーンハウス サービス管理責任者(山崎) の計7名

研修の目的・目標

グループホームと地域が連携することで

- 1 利用者と地域との関係づくり
- 2 地域の人へグループホームや利用者に関する理解の促進
- 3 グループホームやサービスの透明性・質の確保
- 4 利用者の権利擁護

会議までの流れ

利用者、利用者家族として利用者の相談支援員、他事業所職員2名、町内会会长、社会福祉協議会
地域支援課の6名を構成員として選定→電話で構成員へこの会議の主旨を説明して就任依頼
→会議日時を決める→ご参画のお願いと参加承諾書をメールまたは郵送→参加承諾書を受取→
手順や議題を検討する→当日会議開催

会議の進め方

構成員 ①～⑥

- ・各委員が自己紹介をおこなった。

構成員 ⑥

- ・グループホームの説明として、パンフレットで入居対象者、入居に必要なお金、通過型グループホームで3年後は地域でひとりぐらしをする為の練習の場であること、当グループホームの特色として「自立生活援助事業」を2018年から立ち上げていて、ひとりぐらしをはじめた元入居者宅を週1回訪問して困ったことはないか、ゴミ捨てはその曜日ごとに出しているか、入浴や掃除をして清潔に暮らしているか等確認する事業もしていることをお伝えした。

構成員 ①

- ・利用者様へ山崎から質問するかたちでグループホーム入居の動機、毎日の食事、買物の工夫、日中活動、楽しんでいる事、今の生活に満足しているか、職員との関係、入居者との関係、地域とのかかわり(連合防災訓練に参加したことがある)等話があった。

構成員 ②

- ・利用者家族として発言。退院先が本人と家族で相違があり、退院が長引いているときに退院相談支援事業を通してグループホームを紹介してもらい退院に至ったこと、現在の本人と家族の関係が良好であり、ご家族はグループホームに入り、本人の体調が安定していることに安堵していると伝えてくれた。

構成員 ③-1

- 他事業所職員の事業所でも精神のグループホームを運営しており、一軒家タイプ(男性のみ)とサテライト(女性のみ)があり、サテライトは一般の住人が同じ建物に住み、ひとりぐらしの状況に近い、どんなグループホームが合っているのか確認した方が良いですねと話しがあった。

構成員 ③-2

- ・①の利用者さんが日中活動のひとつの場としている事業所の職員さんであり、事業所の月間予定表に名画座やガーデニング、カラオケ、麻雀等色々あるので気軽に参加してみてくださいと話があった。

構成員 ④

- 町内会会長としては、グループホームの方々が町内会の催しである連合防災訓練やジョギング大会に参加してくれていて、前々から嬉しく思っていましたと話があった。

数年前にグループホームの前で座って煙草を吸う入居者がいて、子供が怖がり連絡したことがあったが、すぐに対応してくれて助かりましたと話があった。

構成員 ⑥

- 山崎から、交流室のドアにWELCOMEボードをつけていたが、福祉施設ということが目立ったのか昨年インターホンのカメラをライターのようなもので焼かれる嫌がらせがあり、それ以後WELCOMEボードを取り外しています、残念ですと話した。

構成員 ⑤ 市町村の障害福祉担当者または市町村協議会担当者として、グループホームを卒業したあの住まいは
どんなところがあるのですか？と質問あり。

構成員 ⑥ 山崎から、今2名の方が退居され空室になっていますが、1名は他区のアパートへ引越し、
もう1名は当初滞在型グループホームで探そうとしましたが、規則が厳しくご本人や家族も無理と考え、
次に賃貸アパートの申込をしても家主から断られ続け、退居は障害福祉課から半年延長してもらったが、
半年かけても賃貸は難しいと判断し、ご家族が分譲マンションを購入し退居に至りました、
精神疾患をもつ方の住まい探しが年々厳しくなってきていますと話した。

会議のまとめ

山崎から最後に『町内会会長が地域連携推進会議でグループホームを詳しく知ってください、
町内会の会合等で”柿の木坂グリーンハウスはこんなところですよ”と地域の皆様に伝えてください
ご理解いただけすると幸いです。これからも宜しくお願ひ致します。』とお伝えし、会議を終えた。

添付資料

- ・法人の会報 30号
- ・グループホーム案内パンフレット
- ・(事業所向け)地域連携推進会議の概要
- ・地域連携推進員の手引き
- ・地域連携推進会議の手引き

以上